

藤川 怜子

<http://satokofujikawa.com/>

C.V

- 1983 神戸生まれ
- 2001 私立親和女子高等学校卒業
- 2003 京都精華大学芸術学部立体造形分野入学
- 2007 京都精華大学芸術学部立体造形分野卒業
- 2007-2010 京都精華大学立体造形研究室 アシスタント
- 2007年より NPO法人 [C.A.P芸術と計画会議] 正会員

〔個展〕

- 2007 「セナがつぶやく、サコがつぶやく、」(CAP HOUSE／神戸)
- 2008 「再見蝶のゆくえ」(GALLERY & CAFE HANARE／兵庫)
- 2009 「彼のかけら、蝶のゆくえ」(立体ギャラリー射手座／京都)
- 2010 「みえるもの、みえないもの」(CAP STUDIO Y3／神戸)
- 2011 「スマと私の7ヶ月」(GALLERY PARC／京都)
- 2013 「口唇ヘルペス」(CAP STUDIO Y3／神戸)

〔グループ展〕

- 2003 「せんだいアートアニュアル2003」(せんだいメディアテーク)
- 2004 第4回ヤンガーアーティスト「+1」展(アートフォーラムJARFO／京都)
「せんだいアートアニュアル2004」(せんだいメディアテーク)
- 2005 第5回ヤンガーアーティスト「三歩進んで二歩下がる」展、「証明写真」展(アートフォーラムJARFO／京都)
- せんだいアートアニュアル2005(せんだいメディアテーク)
- 2006 第6回ヤンガーアーティスト「YOUNGER ARTIST#6」(アートフォーラムJARFO／京都)
- 青年アジア芸術祭Asia Art Festival2006「Beyond the rainbow」(韓国昌原 アートホール／韓国)
- 2007 京都精華大学卒業制作展(京都市美術館)
- 2008 音箱展(神戸アートビレージセンター)
- 「Rendez Vous a la Mer～海で会いましょう」日仏交流展(CAP STUDIO Q2／神戸)
- 「CAP TABLE」展(神戸アートホール／神戸)
- 2009 「Milky Way」展(デラ・パーチェ／神戸)
- 2010 CAP ART MARKET2010 (CAP STUDIO Y3／神戸)
- 「CONVERT # photograph」展(ギャラリーアーティストロング／京都)
- TWIST & SHOUT (旧国立生糸検査所／神戸)
- 2011 CAP ART MARKET2011 (CAP STUDIO Y3／神戸)
- HANARE de BAZAAR (GALLERY & CAFE HANARE／兵庫)
- 「photograph～アーティストの見たもの」(CAP STUDIO Y3／神戸)
- 2012 「CAP×TShirt-アーティストのつくるTシャツたち」展(CAP CAFE & SHOP y3／神戸)
- 2013 「Present for me」展(CAP CAFE & SHOP y3／神戸)
- 「スカートのなか」展(メゾンダール／大阪)
- 2014 「フレームズ」展(CAP STUDIO Y3／神戸)
- 2015 「12の窓」展(CAP STUDIO Y3／神戸)

〔買い上げ〕

- 2009 積水ハウス／ハーズ西宮 住宅展示場
- 2011 個人住宅 表札制作

〔展覧会企画〕

- 2010-2015の期間、毎月CAP CAFE & SHOP y3の展覧会企画を担当
- 2012 前田諒太郎「色えんぴつ12色の世界」展(CAP STUDIO Y3)
- アトリエすずかけ「すずかけのおでかけ」展(CAP CAFE & SHOP y3)
- 「CAP×TShirt-アーティストのつくるTシャツたち」展
- 2013 「Present for me」展(CAP CAFE & SHOP y3)
- 「ART×TShirt-アーティストのつくるTシャツたち2013」(CAP CAFE & SHOP y3)
- 「HAPPY HAPPY X'mas」展(CAP CAFE & SHOP y3)
- 2014 「てぬぐい」展(CAP CAFE & SHOP y3)

〔海外展示〕

- 2006 青年アジア芸術祭Asia Art Festival2006「Beyond the rainbow」(韓国昌原 アートホール／韓国)

作品制作について

学生時代より自分の身近に起こった個人的な出来事を、さまざまな素材にのせて作品制作を続けてきました。

火葬場で父の遺骨を拾った時の感覚を作品で再現しようと、薄くてもろい陶器の花を作ったり、失恋をした時は、その衝動をセルフポートレートにより写真で表現したりと、その時々に応じてさまざまな素材を使い、表現手法を変えてきました。次はこんな方法で作品を作れば面白いのではないかと、こんな素材を使えば観に来た人を驚かせ、興味を抱かせることができるのではないかと、模索を続ける日々でした。

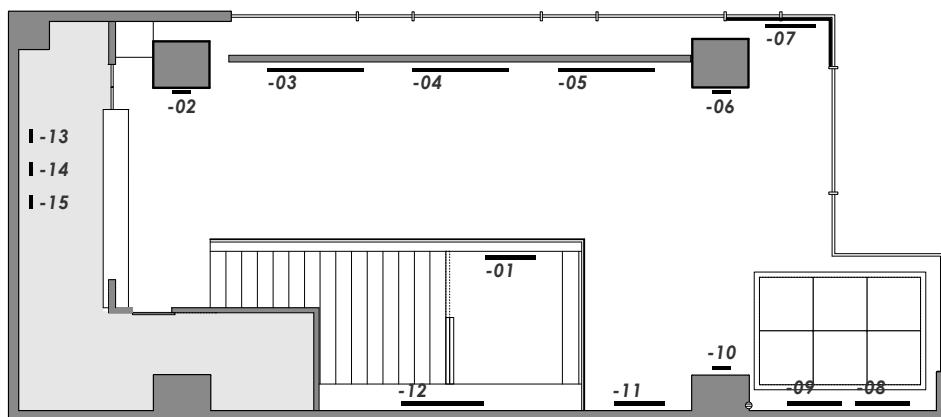
そんな制作を続けるうち、自分と作品の間に違和感が生まれ、それは次第に大きくなって、ついには自分の思いとはかけ離れた作品が生まれるようになったのです。

「表現とすることとはなにか」を改めて考え直した時、もう一度最初からおさらいする必要が私には必要でした。鉛筆を削り紙に線を引き、しっかり「モチーフ」を見て描く。それらの行為は、素材の力や表現方法に頼りきっていた私にとっては、反省文を書くような感覚に似ていたようにも思います。

「表現とは」という迷宮に迷い込み、勝手に疲れきっていたこの頃の私の顔には、よく口唇ヘルペスや目蜂子ことができました。腫れた唇や目をよくよく鏡で観察していると、自分の心象風景と大きく重なり、“これはなんとダイレクトな表現なのだろう”と妙な感動を覚え、それ以来、傷口を眺めては描くという行動をここ2、3年続けています。

画面の中に描かれる目や唇は、すべて鏡を見ながら描いたもので自画像です。ある日、顔にできた口唇ヘルペスや目蜂子、口内炎を観察していると、私の心の様子を視覚的にも感覚的にも、具体的かつ的確に表現しているように思え、妙に納得し感動したという出来事がありました。身体の内に近い、むしろ内臓が表に見え隠れする、目や口からあふれ出るヘルペスによってできた水泡は、内側に隠しきれないしんどい思いが形となって現れたようであり、ヒリヒリとした感覚は心の痛みそのものでした。また、自分が“生もの”で生きているのだという不思議な感覚も同時に味わうことが出来るのでした。

これらを描く作業は、個人的な自己対話であり、ただ自らを落ち着かせる作業なのかも知れません。しかし、今の私には必要なことであると感じています。「主題と深く向き合う」「シンプルに作品と対話する」ことが、もう少し理解できるまでは、まだ、これらの作業はやめることができないのかも知れません。



-01 「花の習作-胡蝶蘭」

2013 パネル・木炭

-02 「口内炎」

2013 紙・ペン

-03 「目が開けられない」

2015 キャンバス・木炭

-04 「花の習作-芍薬」

2015 キャンバス・木炭

-05 「飲み込まれる」

2015 キャンバス・木炭

-06 「中耳炎」

2013 紙・ペン

-07 「目が開けられない」

2015 パネル・木炭

-08 「唇のデッサン」

2014 紙・鉛筆

-09 「自画像」

2014 紙・鉛筆

-10 「口唇ヘルペス」

2013 紙・ペン

-11 「花の習作-カサブランカ」

2013 パネル・木炭

-12 「口唇ヘルペス」

2013 パネル・木炭

-13 「彼女のためのドロウイング」

紙・ペン

-14 「彼女のためのドロウイング」

紙・ペン

-15 「彼女のためのドロウイング」

紙・ペン